

「間伐材を活用したキーホルダー作り」 報告

日 時： 2024 年 12 月 15 日（日） 10：00～16：30
場 所： イオンレイクタウン 3 F 花の広場ブリッジ
主 催： 公益財団法人 ニッセイ緑の財団
参加者： 610 名
担 当： 久保雅春、廣川妙子、木口明浩
報 告： 木口明浩



開店の 1 時間半前にニッセイ緑の財団の職員 4 名と共にブースの設営準備を始めた。バックヤードからテーブルと椅子を運搬、設置し、各種材料を並べる。FIS 側からは、パンフレットとブンブン独楽を展示し、ブースの後方に幟を立てた。10 時の開店とともにお客様を迎える。

はじめに、参加者は受付を済ませ、材料を受け取る。間伐（除伐）材を輪切り（直径 30 mm 前後、厚さ 8mm 程度）にしたもので、予めヒートンを取り付けた広葉樹全 8 種類（イヌガヤ・サンショウ・ツバキ・シラキ・イヌシデ・ホオ・ミズキ・エゴ）が用意された。このうちどれか 1 つ好きな樹種を選択できる。次に参加者が選んだ材料を解説した樹木カードを配布する。そして、スタンプの色（赤又は緑）を決める。作業台はスタンプの色別に分けてあり、各自が希望した色の台へ移動してもらう。さらにストラップの色（赤・緑・白・金・銀の全 5 色から 1 つ）を選ぶ。最後にスタンプのデザインを載せたメニュー表（全 36 種類）から気に入ったスタンプの番号を指定し、スタッフからそのスタンプを受け取って、参加者自身が押すという流れになる。

参加者のほとんどは幼児～小学校低学年を含む家族連れが中心で、一般の単独参加者はわずかであった。作業自体はゴムスタンプを押すという極めて単純なもので、やさしく、危険な要素はない。しかし、未就学児にとって、これが意外と難しいことが判った。上下さかさまにインクをつけてしまう子、うっかり赤いインクを指につけてしまいそれをみてびっくりして泣き出す子もいる。インクの浸け加減、はみだし、押して離すタイミング、押す力の強弱等々、油断すると失敗する。保護者が付き添ってはいるものの複数のお子さんを連れている場合や保護者自身が自分の作業に気を取られていることもあるので、成功するポイントを教えて作業がスムーズに流れるようにアシストする必要があった。

木口（こぐち）の色が明るく目の詰まった樹種（シラキ、エゴ、ツバキ等）は比較的きれいに写る。反対に暗く毛羽だったもの（イヌシデ、ホオ、ミズキ等）は、渋く落ち着いた感じで趣はあるものの、その分インクの発色はよくない。

15 時を過ぎたあたりで、残っている材料（輪切り）が小ぶりなものになっていた。こうなるとスタンプによっては収まりきらなくなってしまうものが出てくる。せっかく選んだ

デザインを使わず、小さなスタンプへの変更を迫られる場面がみられた。材料は直径 30mm 以上のものがのぞましいように思われた。

とはいえ、イベント全体を通してみると概ね参加者には満足いただけたような感触を得た。うまくいった要因として思いつくものをあげておきたい。

- ・ 工具を要する工程がないように予め準備できていたこと
- ・ 気に入った材料と好きなスタンプを組み合わせるとオリジナルを作るという楽しさ
- ・ 10～15分という短時間かつ無料で参加できるという気軽さ
- ・ 樹木の解説カードから知識を得て、自分でつくったものに愛着をもてる。

また、ぶんぶんゴマに興味を示した子供もいたにもかかわらず、独楽の製作を提供できなかったことは悔やまれる。さらに広げるならば、樹種の特徴を活かした製作メニューを複数用意できると自然素材への理解、関心を深めながら楽しめるイベントになると考える。この場合、一定の年齢以上が対象になり、応分の費用負担と作業時間の確保も必要になるであろうことから、FIS オリジナルの発展形の企画として検討するとよいと思う。

財団が準備した材料は、宮城県にある「森から考える ESD 学びの森」から産出したもので、宮城県森林インストラクター協会の協力によるものということだった。思いがけず他団体の活動の一端を知ることができ、少なからず刺激になった。また、間接的ではあるが、このようなかたちで他団体のインストラクター会とつながることができたのは嬉しいことだ。今後は、なんらかの連携を探って互いに活躍できる方向を目指すのもおもしろいと思う。最後にニッセイ緑の財団には、全面的な協力と貴重な機会を頂き感謝したい。



左上 ぶんぶん独楽に挑戦 右上 スタンプの一覧
左下 材料と樹木カード 右下 作業台のようす